

第71回入学式 校長のこたば

神奈川県立多摩高等学校長 梅田 俊輔

ただ今入学を許可しました、第71期生279名の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。学校を代表して、皆さんを心から歓迎いたします。また、本日まで皆さんを温かく支えてこられたご家族や関係者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

本日入学式を執り行うにあたり、多くのご来賓の方々のご出席を賜りました。高い席からではございますが、心よりお礼申し上げます。

さて、皆さんはこれまで地道に学習に勤しみ、努力を続けてこられました。晴れて多摩高校に合格し、入学を果たした今、その努力は何のためであったのか、ぜひ自問自答してみてください。何のために多摩高校に入ったのか、ここで何を学ぼうとしているのか、何を期待しているのか。

人生という長い道筋で考えれば、高校時代は一つの通過点に過ぎません。ですが、私は皆さんに、この高校時代こそが後の人生を大きく左右するターニングポイントとなるということをお伝えしておきたいと思います。

多摩高校の育てたい人材は、広く世界で活躍できるグローバルな人材に加え、スーパーサイエンスハイスクールのミッションでもある科学的リテラシーを備え持ったイノベーション人材です。気候変動や資源、エネルギーの問題など、持続可能な地域社会の実現に向け、解決しなければならない課題は山積しています。また、生成AIに代表される社会の変革は、これまでに経験したことのない新たな状況を生み出しています。こうした現代において、もっとも必要とされているのは、得た知識を駆使し、それまでの常識にとらわれず、他と協働して新たな価値観を生み出す人材にほかなりません。用意された答えを覚えればそれで終わり、といったような勉強法では、このような人材は育たないでしょう。

皆さんには、これからの未来を強く、たくましく生きていってほしい、そう願っています。そこで皆さんに大切にしたいものがあります。それは「好奇心」です。「好奇心」は、なぜそうなるのかという「問い」を常に心に持ち続けるための起爆剤です。「問い」を追求し続けることこそが、皆さんをさらなる高みに導く最も根源的かつ効果的な方法であるはずで、そして失敗から学ぶこと。かのトマス・エジソンは、「私は失敗したことがない。ただうまくいかない一万通りの方法を見つけただけだ」と言ったそうですが、そうした前向きさが必要です。これらの姿勢を貫けば、皆さんの生き方そのものが変わってくるでしょう。

多摩高校は「自重自恃」、「質実剛健」という二つの校訓の下、授業だけでなく、行事や部活動など、全教育活動を通じて皆さんに社会で活躍するための基礎体力を付けていきます。約70年という伝統は、目に見えない大きな力となって皆さんを支えていくでしょう。また、社会のありとあらゆる分野で活躍されている卒業生の存在も心強いものです。これからの3年間、皆さんが多摩高生であるという誇りを胸に、決して受け身にならず、高い目標を掲げ、積極的に取り組んでいくよう期待します。「自分が何者であるかは、自分で決める」、そういう気概を持って取り組んでほしいものです。

保護者の皆さま、これまで温かくお子様を見守ってこられたことに、心より敬意を表します。我々多摩高校職員一同、お子様の学校生活を全力でサポートしてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

それでは皆さん、改めまして多摩高校へようこそ。皆さんの高校生活が充実した素晴らしいものとなることを心よりお祈りして、私の式辞とさせていただきます。頑張ってください。

令和8年4月7日